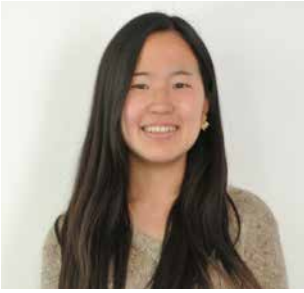
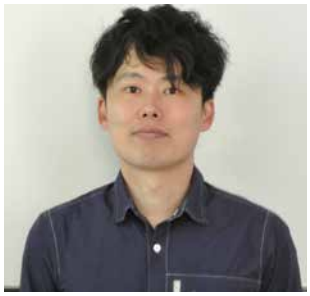
神戸大学 経済学部

国際性と専門性を身につけた人材の育成を目的として、5 年一貫経済学国際教育プログラム(IFEEK)、EUエキスパート人材養成プログラム、グローバルマスタープログラム(GMAP) という教育プログラムを提供しています。



■大学生
新倉さらさ さん

■先生
竹内憲司 先生



■卒業生
田中彰 さん

CONTENTS

●プロフィール　●大学生活について　●就職活動、仕事について
●5年後に向けて　●高校生へのアドバイス

●プロフィール

神戸大学 経済学部の特徴を教えてください。

■先生
約 50 名の教員スタッフが在籍する規模の大きさは、本学部が誇れる特徴だと言えるのではないでしょうか。もちろん他大学にも同規模の教員を擁するところはありますが、その半数くらいは経営学を専門にしておられる方もいらっしゃるようです。その点、本学部の教員は約 50 名のすべてが経済学の専門家で、バラエティ豊かに様々な分野の研究に携わっています。
教員が専門としている分野は、「理論分析」「歴史分析」「計量・情報分析」「産業・社会政策」「金融・公共政策」「比較経済政策」「技術環境分析」「国際経済政策」の 8 つの領域にまたがっていて、学生たちは自分たちの興味に応じて経済学の知見を深められます。

先生が研究されているご専門は？

■先生
私の専門は環境経済学です。経済学の手法を使って環境問題とその処方箋を考える学問です。例え

ば、身近なゴミ問題でお話ししますと、「ゴミ袋の値段が上がればゴミが減る」という傾向があります。神戸市指定のゴミ袋は 10 枚 100 円程度ですが、福岡市の場合、指定のゴミ袋は 10 枚 450 円で売られています。福岡市はゴミ収集の有料化を実施していますので、そのお金がゴミ袋に含まれているのです。これにより福岡市の市民には少しでもゴミを減らそうという心理が働き、結果的に環境を守ることにつながります。

■卒業生

無意識にそうした心理が働くのが面白いですね。

■先生

「ゴミを減らしましょう」「リサイクルを心がけましょう」と人々の良心に訴えかけても、なかなか行動に移してもらえなかったりしますよね。しかし、ゴミ収集を有料化するといった経済的な手段を取り入れることで、たとえ環境問題への意識がなくても、行動の変化はもたらしやすくなる。こうしたデータを集めて統計的に分析し、さらに人や組織がどういう基準で行動の意思決定をするのかを踏まえながら環境問題の原因と解決策を見つけるのが環境経済学の目的です。

新倉さんは先生の研究室で学ばれているのですか？

■大学生

はい。竹内先生のゼミに所属していて、今年度はいよいよ卒業論文に取り組みます。

■先生

テーマはもう決まっているの？

■大学生

「フェアトレード」を研究しようと考えています。世の中で売られている商品にはすごく安価なものがありますが、その多くは中国やその他の国々で製造されています。そこで「どうしてそんなに安いのか？」と疑問を持ち、生産に携わるどこかの国の誰かがその犠牲を強いられているのであれば解決策を考えて実行するのが「フェアトレード」だと私はとらえています。卒業論文ではぜひこの問題を扱いたいです。

■先生

よいテーマですので頑張ってください。

■大学生

ありがとうございます。

田中さんも竹内先生のゼミのご出身ですか？

■卒業生

はい。学部時代は先生のゼミで学んでいました。

■先生

田中くんは卒業後、まず一般企業に勤め、その後、自分で会社を起こしたユニークな経歴の持ち主だね。

■卒業生

3 年ほど会社勤めをして、何を思ったのか起業の道に進んでしまいました。植物全般を取り扱う BOTANIC という会社を立ち上げ、法人化して 3 年目になります。

■大学生

お花屋さんを経営されているのですか？

■卒業生

花屋の実店舗もありますし、花材を使ったアレンジ商品の販売、法人向けの装飾、他には造園や植栽なども手掛けています。切り花だけでなく、いわゆる根っこものも含めて植物全般を扱っています。

■先生
田中くんも新倉さんも、自分でやりたいことを見つけて行動するタイプの人間だから、お二人の話は高校生の皆さんにも興味深いものだと思います。

●大学生活について

神戸大学 経済学部を志望した理由を教えてください。

■大学生
私は学部選びだけでなく、どの地域の大学に進学するかについても結構迷いました。神戸大学の経済学部に決めたのは、先ほど竹内先生もお話しされましたが、いろいろな地域の研究に携わる先生が大勢いらっしゃるのが魅力的だったからです。高校時代は留学経験などもあったので、ぜひ国際的な視野で経済学を学びたいと思いました。

■先生
新倉さんは大学に入ってからも積極的に海外に行っているよね。

■大学生
はい。学部の交換留学制度でスペインの大学に行きましたし、他にも NGO 団体が主催する世界一周のクルーズにスタッフとして参加して、アフリカや南米、南太平洋の島など南半球 15 カ国ほどをまわりました。実はそのクルーズに参加したことで卒業しそびれてしまって……。2017 年の 3 月に戻ってきたのですが、その時にはみんな卒業しちゃってました。

■卒業生
大学時代だからできる素晴らしい経験ですね。僕には到底できない……。

田中さんがこちらの経済学部を志望した理由は？

■卒業生
僕は他大学からの編入で 3 年生から神戸大学に入りました。元々は医学部志望でしたがそれが叶わず、ひとまず京都の私立大学に入学したんです。そこに籍を置きつつ、再び医学の道を志すかを決め兼ねながら日々悶々と過ごしていましたが、真剣に進路を考えないといけないと思い、経済学部で学び直そうと決めました。

■先生
そこでなぜ経済学部を選んだの？

■卒業生
高校時代は理系だったこともあり数学が得意でしたので、社会科学系の経済学部ならそれを活かせると思いました。とにかく自分の中で一度仕切り直して勉強しようという気持ちが強かったです。

■先生
どの大学もそうですが、入学するとサークル活動などに夢中になって年々学業が疎かになる学生も中にはいます。でも編入生の場合、目的意識が高いまま 3 年生からスタートするので、一人ひとりが非常にユニークだし、過去を振り返ると田中くんを含めて優秀な学生が多かったと感じます。

■卒業生
僕は決して優秀だったわけではありませんが、今思うと一般の学生よりも勉強に対する意識は高かったかもしれません。挫折を経験し、「もう一度、学び直す！」と決めて編入したので、まわりに流さ

れることも、ぶれることもなかったです。その反面、みんなが送るような楽しいキャンパスライフ、例えば新入生歓迎会といった学生ならではノリは経験できなかったですけど。

先生のゼミの様子を教えてください。

■先生
配属は３年生からで、私のゼミの進め方は夏休みにまず 10 枚程度のレポートを書いてもらいます。テーマは前期の間に学んだことを踏まえて学生各自が自由に決めます。それを後期の最初のゼミで発表し合い、学生たちがいいと思うテーマをピックアップし、グループに分かれて深く研究していきます。

■大学生
私は「電力の自由化」をテーマにグループワークをしました。

■先生
新倉さんの時は、法律の改正による電力の小売りの自由化が実施される直前だったかな。それを見すえて興味を持った学生が提案したテーマでしたね。ところで田中くんは卒業して 10 数年が経つけど、当時のゼミのことは記憶に残っている？

■卒業生
確か、自然環境の問題に関することを勉強したような……

■先生
おぼろげながらも覚えているね。田中くんの時は「猪の獣害」や「ホッかる弁当」などをテーマにしたんじゃなかったかな。

■卒業生
思い出してきました。紙でできた「ホッかる弁当」はリサイクルに回せるので、効果的に回収するにはどういう手段が有効なのかグループワークしました。他大学の経済学部と一緒に発表大会をした記憶もあります。

■先生
他大学との発表大会は今も実施していますよ。関西圏の大学には私と同じ環境経済学が専門の先生もいらっしゃるので、そこで学ぶ学生が年に１回集まって発表を行っています。普段のゼミでは和気藹々とやっていますが、こういう場はいつもと違った緊張感があるので学生にとってよい刺激になっているでしょう。

先生が授業を行う時に心掛けていることは？

■先生
学生が主体的に取り組めるようにしています。教員がテーマを与えてしまうと、学生は“やらされている”感を抱いてしまい、そうなると「次に何をしたらいいですか？」と聞きに来てしまいます。これでは大学で学ぶ意味がないですから。
また、経済学はという学問はある程度体系が確立されていて、数学みたいなところがあるので、割と限られた分析しかできないところもあります。ですから、ゼミで取り組むテーマ、その発想の自由さは、感性が鋭い学生たちに任せたほうが絶対に面白い学びにつながります。私自身それを楽しませてもらっているところはありますね。

●就職活動、仕事について

卒業生の皆さんはどういう分野で活躍されていますか？

■先生

経済学部全体で言いますと、金融関係の仕事に就く人は結構な割合でいます。メガバンクや地方銀行、証券会社、保険会社などの金融系の企業に就職する人が多いかな。それ以外ですとメーカーやサービス業、あとは少数ですが大学院に進む人もいます。

■卒業生

商社に就職する人もいますね。

■先生

そうだね。

金融業界に進まれた卒業生は具体的にどういうお仕事を？

■先生

融資の仕事、預金の仕事、外国為替を扱ったりする仕事など様々だと思います。学部時代に身につけた経済の基礎的な法則性やルールは、多少なりとも頭にインプットして卒業していきますので、世の中を見通す力は各々の職場で発揮できているのではないでしょうか。

■大学生

環境経済に関係する仕事をされている方はいらっしゃいますか？

■先生

環境に関して言えば、植物を扱っている田中くんが代表格かな。

田中さんは卒業後、まず会社勤めをされたんですね？

■卒業生

はい。まず大手硝子メーカーに入社しました。最初は証券会社に入ろうと思って内々定式に出席したのですが、そこで出会った人たちの考え方があまりにも自分に合わなさすぎて、「この業界はちょっと……」と敬遠してしまいました。

■先生

何かしらの違和感を感じたんだね。

■卒業生

金融系の会社からいくつか内定をもらい、自分には向いていると感じていたんですが、その内々定式がきっかけで合わないと感じました。あらためて硝子メーカーを選んだのは、世界規模の企業であるところに魅力を感じ、当時はグローバルに活躍したい希望があったので海外に赴任して仕事ができればと思っていました。採用人数が少ないところも決め手になりました。

■先生

採用人数に注目したのは面白いね。

■卒業生

当時から独立願望は少しあったので、採用人数が少ない会社に入れば一人で多様な仕事を任されるだろうと。実際に入社して働き始めると、ある程度の裁量権も与えてもらい、いろいろ経験させてもらえたので感謝しています。

その後、起業に至る経緯を教えてください。

■卒業生

硝子メーカーを退社したのは、友人から「NPO を立ち上げるから手伝ってほしい」と声をかけられたことがきっかけです。そこで“本気で頑張る”人たちを目の当りにしました。

NPO 活動をする人たちは本人の原体験をもとに「いじめの問題を解決したい」「病気がちの子供のために何ができるのか」ということに本気で向き合っています。そういう人たちがいる中で、ふと、「自分は何をしているんだろう？」と感じたんです。それを機に本当にやりたいことを見つめ直し、今の会社を立ち上げるに至りました。

■大学生

もともとお花や植物に興味があったのですか？

■卒業生

両親の影響もあって昔から植物は好きだったので、「自然」というキーワードは心にありました。あとは、地元に帰省した時にたまたま高知県牧野植物園を訪れたのですが、そこであらためて植物の魅力を感じたことも大きかったです。大学時代からビジネスには興味があり、植物に関するマーケットはまだまだあると見込めたので、思い切って起業しました。

お仕事をされる上でやりがいに感じることは何でしょう？

■卒業生

都会では“上質な暮らし”といったキーワードが独り歩きしていますが、人が豊かに生きる・幸せを感じて暮らすことを追求すると、植物はその可能性を引き出す大切なピースになると考えています。また、これからの日本は人口が減り、GDP が落ちて行くことが容易に想像できる中、消費の仕方が物（モノ）ではなく事（コト）に移りつつあると感じています。僕は花や植物を楽しむスタイルは“コト消費”だと捉えていますので、そこに関わってビジネスができていることにとてもやりがいを感じます。

● 5 年後に向けて

将来の目標や夢について教えてください。

■大学生

学部を卒業したらヨーロッパの大学院に進学して環境経済学をもう少し勉強したい気持ちはありますが、正直迷っているところです。

■卒業生

新倉さんは行動力があるので、学部卒で一度就職するのもいいかもしれませんよ。

■大学生

そう思われますか？

■卒業生

社会に出て新たにやりたいことが見つかれば方向転換もできますし、働きながら大学院に行って勉強することだってできます。

もし就職するならどういう仕事に就きたいですか？

■大学生

現在、洋服を扱っている会社でインターンとして仕事のお手伝いをさせていただいています。先ほどお話ししたフェアトレードの会社で、興味を持っている分野ですので自分に合っている気がします。今は事務作業や翻訳などを任されていますが、今後は自分の希望も伝えて任せてもらえること

を増やせればと。期間は３カ月なので、その間に１つでも多くのことを経験したいです。

■先生
田中くんの今後の目標は？
■卒業生
日本の会社の生産性の問題がニュースなどでも取り挙げられていますが、そうした問題をよい方向に牽引していくことは自分の業界も必要だと認識しています。商品の廃棄ロスの問題、在庫を扱うリスクの問題は、花業界を悩ます問題です。そういう中でストックを持たないビジネスにもチャレンジしていますので、そういう可能性も探っていきたいです。
■先生
例えばどのようなことをやっているの？
■卒業生
四季の花の情報を提供する新聞を毎月発行しています。定期購読されたお客様には、花卉農家から仕入れた花を新聞と一緒に直接お届けします。
■大学生
すごく面白いアイデアですね。
■卒業生
こだわっているのは“花屋が新聞を作る”ということで、外部の会社に制作を依頼せずに僕を含めたスタッフ自らが企画・取材・編集・執筆・撮影をこなしています。新聞ですから Web 媒体ではなく“紙媒体”であることにもこだわり、付加価値としてのアナログ感を大事にしています。現在、個人のお客様だけでなく法人の購読希望も増えてきていますので、今後少しずつ販路を広げていきたいです。

先生の今後はいかがでしょう？

■先生
教員の立場としては、田中くんや新倉さんのような、よい意味で“やんちゃ”な学生を社会に送り出したいですね。
■卒業生
僕はやんちゃではなく、まじめですよ。
■先生
あくまで私の感想ですが、神戸大学の学生はちょっとおとなしくて優等生タイプが多い気がします。決して悪いことではないですが、もっと積極的に“外の世界”を見ることにも興味を持ってほしいと思います。日本にずっといると、小学・中学・高校・大学まで日本人だけのグループの中で、均一的なカルチャーのもとで育ち、外の世界を知らないまま社会に出ることになります。
ただ、「外向きになれ」と言ってもなかなか難しいので、まずは大学の中を外向きに、開かれた場所にできればいいと考えています。それを実現するために各国からスピーカーを呼んで積極的にセミナーを開いていますし、参加した学生たちは興味を持って聴講しています。また、様々な国の人と一緒に学べるように、学部においても多くの留学生を招くことを実現したいです。

●高校生へのアドバイス

皆さんから高校生にアドバイスをお願いします。

■卒業生

社会に出て実感したことは、人付き合いの大切さです。高校生の皆さんの立場で言うと「友達と仲良く」ということです。ビジネスは“人対人”で成り立っていると言っても過言ではないので、そのコミュニケーションをないがしろにしていると将来苦労することになります。高校時代は受験勉強も大事ですが、たまには一息入れて友達と楽しく遊ぶことも大切だと思います。

■大学生

人と人とのコミュニケーションで言えば、私が通っていた高校は先生と生徒の距離がすごく近かったです。授業が終わってからも放課後遅くまで職員室に入り浸って、勉強のこと以外にも人生について先生と一緒に様々な話をしました。とても楽しかった記憶があります。

■先生

新倉さんは高校時代に留学しているけど、そうした経験からアドバイスできることはありますか？

■大学生

自分がやりたいと思うことは何でもチャレンジするのがいいですね。それは高校でも、大学でも同じです。私は何でもやりすぎた気がしていますが、自分で決めて行動したことに悔いはないですし、それは勉強に関しても同じです。

■卒業生

高校の時はどちらに留学されていたのですか？

■大学生

スイスの公立高校に１年間、ホームステイをしながら留学していました。スイスにはドイツ語圏とフランス語圏とイタリア語圏があり、私はフランス語圏の高校に通いました。当然、授業はすべてフランス語。しかも現地の高校で生物化学のコースに入ったので、その実験授業とかも全部フランス語で行われました。専門用語なんて日本語でも知らないし、もちろん実験の経験もなかったので、もうホント泣きそうでした。

■先生

強烈な体験だね。

■大学生

これまでの人生の中で自分に一番影響があった体験でした。この体験があるから積極的に行動できる今の自分がありますし、もう一度ヨーロッパに行って大学院で勉強したい気持ちもあります。

最後に先生からアドバイスをお願いします。

■先生

やはり高校時代は何事にも“とことんのめり込む”ことが大事でしょう。勉強が楽しければそれにのめり込み、部活を頑張るのであればとことんのめり込み、友達と遊ぶのが楽しければとことんのめり込む。本当に自分が好きなこと・やりたいことは、そうした中にあったりしますから、その種をぜひ高校時代に見つけください。

こちらの経済学部を志望する上で特別な準備は必要ですか？

■先生

私の環境経済学で言えば、高校の段階で取り立てて詳しい知識を持っておく必要はありません。ただ、環境がテーマになる学問ですので理系科目に興味を持っておくことは大切ですし、興味を持って向き合える柔軟性があることも大事です。

とくに環境経済学は、枠組みにとらわれずに自由な発想が求められる学問です。社会科学系に属する分野ですので文系学問であることは確かなのですが、理系の進学をめざしている高校生も自分がやりたいと思っていることに取り組める環境はあります。分野というのは誰かが勝手に、便利なように作ったものですから「そんな枠組みなんて本当はないはずだ」と、自由な気持ちを持って経済学を楽しんでほしいですね。

大学構内のお気に入りのスポット

■卒業生

在学時代は普通にミーハーだったので「百年記念館」が好きでしたが、久しぶりに訪れると「兼松記念館（経済経営研究所）」のまわりにある豊かな緑がいいと感じます。

■先生

好みは変わるものだね。

■卒業生

当時は経済学部がある六甲第１キャンパスから「百年記念館」がある第２キャンパスまでわざわざ降りて見に行ったりしていました。

■大学生

私は図書館が好きですね。高校時代にここの図書館の写真を見たことも神戸大学を素敵に思えた理由の１つです。母の友達にライターの方がいて、神戸大の図書館の取材をされたことがあり、その写真を見せてもらった時に「関西っていい！」と感じました。

■卒業生

新倉さんは神奈川の出身ですよね。首都圏から西に来るって珍しいですよね。

■大学生

そうなんです。私の身近にはほとんどいませんでした。

■卒業生

先生のお気に入りの場所はどこですか？

■先生

私も田中くんと同じで、「兼松記念館」の前の緑が好きだね。いくつかベンチがあるので、そこに座ってお茶を飲みながらよく気分転換しています。桜の季節も素晴らしいので、毎年春が訪れるのを楽しみにしています。

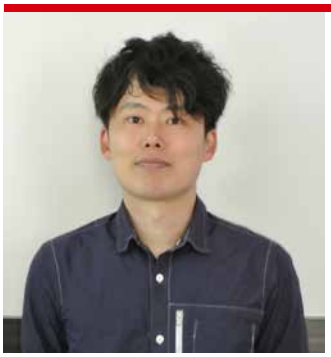
●インタビューに答えていただいた方々●

■先生

竹内憲司先生

神戸大学大学院経済学研究科教授

大阪府立豊中高等学校出身。広島大学総合科学部総合科学科卒業、京都大学大学院経済学研究科修士課程・博士後期課程修了（経済学博士）。日本学術振興会特別研究員、明治大学短期大学経済科助手、神戸大学大学院経済学研究科助教授・准教授、スウェーデン・ヨーテボリ大学経済学部客員研究者を経て現職。環境経済学が主な専門。論文「環境および健康リスクの経済的評価」にて環境科学会奨励賞受賞（2009 年）。

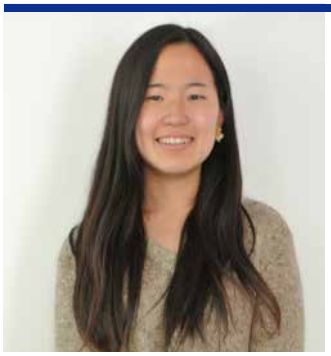


■卒業生

田中彰さん

株式会社 BOTANIC 代表

私立高知学芸高等学校出身。神戸大学経済学部経済学科卒業。編入制度で 3 年から神戸大学に入り、竹内先生のゼミで環境経済学やビジネスについて学ぶ。学部卒業後、大手硝子メーカーを経て独立。現在、植物全般を取り扱う株式会社 BOTANIC の経営に携わる。



■大学生

新倉さらさ

神戸大学経済学部経済学科 4 年生（2017 年度取材当時）

神奈川県立神奈川総合高等学校出身。高校時代から留学を経験し、国際的な視点で経済学を学びたいという志望動機のもと神戸大学に入学。現在、環境経済学のゼミに所属。「フェアトレード」をテーマに卒業論文を作成する予定。